

1 単元名 日本語のひびきを味わう～21世紀の清少納言になろう～

2 単元の目標

- リズムや響きの良さを感じながら、進んで音読に取り組もうとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 「オリジナル枕草子」を書いたり、互いに読み合ったりする中で、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読むこと(1)オ)
- 「枕草子」の文章について、内容の大体を知り、リズムや響きの良さを感じながら音読することができる。(言語についての知識・理解・技能)
- 「枕草子」の概略を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(言語についての知識・理解・技能)

3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・リズムや響きの良さを感じながら、進んで音読に取り組もうとしている。	・「オリジナル枕草子」を書いたり、互いに読み合ったりする中で、自分の考えを広げたり深めたりしている。 読むこと(1)オ	・「枕草子」の文章について、内容の大体を知り、リズムや響きの良さを感じながら音読している。 伝国(1)ア(ア) ・「枕草子」の概略を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知り、現代人のものの見方や感じ方と比べている。 伝国(1)ア(イ)

4 単元について

(1) 単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元は、「C 読むこと」の言語活動例「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」を具体化し、『古語のリズムや響きの良さを感じながら「枕草子」を音読し、オリジナル枕草子を書いて、清少納言や友達とのものの見方や感じ方と比較する』という活動を、単元を貫く言語活動として位置づける。ここで取り上げる「オリジナル枕草子」は、季節とその季節の趣のある風物詩や時間などについて、体験や経験を交えながら枕草子風にした随筆のことである。

さらに、年間を通して春夏秋冬の「オリジナル枕草子」を書き、学習のまとめとして一つの作品を作り上げることとする。そうすることで、児童の季節に対するそのときどきの思いを表現させることができるとともに、年間を通して意欲的に取り組めると考える。また、単元の初めには教師の見本を見せる。そうすることで子どもたちの意欲を喚起させることができるだろう。ここでは古典に親しむことが第一であるため「枕草子」を真似しながら「オリジナル枕草子」を書く活動を十分に楽しませるようにする。完成作品については、清少納言の「枕草子」や友達の「オリジナル枕草子」と読み比べを行い、それぞれのものの見方や感じ方を比較させる。

本教材は、日本の四季の変化や特徴を、作者である清少納言が繊細な感性でとらえたものである。現代でも共感できる情景ばかりではないが、解説文を読みながら今と比較することにより、情景は変化しても四季に寄せる人々の思いはあまり変化しないということに気づかせることができる教材である。

また、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いや当時と同じ意味で使われている言葉や、今では使われなくな

っている言葉や言葉遣いなどについても気づかせることができる。

そして、春夏秋冬それぞれの季節について、枕草子風の随筆を書くことで、昔と今の情景の違いや言葉遣いの違いなどを感じながら日本語のおもしろさや不思議さを感じさせることができると思われる。

古語のリズムや響きの良さを感じながら「枕草子」を読み、昔と今のものの見方や感じ方を比較しながら、オリジナル枕草子を書き、互いの作品を読み合う活動を通して、児童一人ひとりの季節に対する感じ方を広げたり深めたりさせていきたい。

(2) 単元で身につけさせたい力

本単元では、学習指導要領 5 学年及び 6 学年の「C読むこと」の目標「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」に基づき「C読むこと」の指導事項オ（自分の考えの形成及び交流に関する指導事項）「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」を受けて設定している。

また、「C読むこと」の指導を通して、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「ア 伝統的な言語文化に関する事項」の「(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。」及び「(イ) 古典について解説した文章を読み、昔のものの見方や感じ方を知ること。」についても指導していく。

そこで、本単元では、「オリジナル枕草子」を書く前に、教材を何度も音読し、古典のリズムや響きの良さを感じさせたい。さらに、昔と今の情景や心情について比較しながら読ませることで、児童の季節に対する多種多様なものの見方や感じ方があることに気づかせ、自分の思いを広げたり深めたりできるようになってほしい。また、その際に、枕草子の文章の表現や構成についても意識させるため、四季それぞれの内容を比べながら読ませていく。その後、春から夏にかけての「オリジナル枕草子」を書き、お互いの作品を読み合うようにする。

これらの活動を通して、古典の文章のリズムや響きの良さを感じ取り、昔の人のものの見方や感じ方と現代人のものの見方や感じ方を比較して、自分の考えを広げたり深めたりする力をつけさせたい。

(3) (1) と (2) の基盤となる言語環境や継続的な取組

①継続的な音読活動と読書活動

朝の会の前に毎日音読をする。「平家物語」や「百人一首」などの古典的な文章を始めとして、「吾輩は猫である」「奥の細道」などの文学の冒頭文を音読する。毎日続けることで、古語の言い回しや響きについて親しむことができると考える。

また、本校では木曜日と金曜日の朝自習の時間が読書タイムとして設定されている。その時間を活用し、詩や俳句、百人一首などの古語に触れる機会が多くなるような学級文庫を用意する。図書館指導員と連携を取り、図書室の本の中から古語が入っているものを選び、クラスの学級文庫として置いておくことで、児童がそれらの本を手に取りやすい環境を作る。普段、図書室を利用する際には手に取りにくい本でも、学級内に置いておくことで興味を持ちやすくなるだろう。さらに、中央図書館の団体貸し出しも利用する。古語に触れる機会を増やすことで、児童の古典に対する関心を高めることができるだろう。

②定期的な俳句作り

本校では、毎月全校で俳句作りに取り組んでいる。その月、その季節ごとの経験を振り返りながら季語を選び、俳句を作る。本学級では、毎月のものだけでなく、毎週一回俳句作りを行っている。昨年からは俳句を作る前にウェビングマップを書いてイメージを広げさせてから取り組むようにしている。本単元でも、「オリジナル枕草子」を書かせる前に、選んだ季節についてウェビングマップを書かせることで、イメージを広げ、随筆の

内容についてより言葉を精選しながら書くことができるだろう。

③日記学習

週に一・二回、日記学習を宿題で行う。宿題を出す際には「好きな季節」や「季節ごとの思い出」などテーマを与えるようにする。出来事を通して日々感じたことを書きためておくことで、「オリジナル枕草子」を書く際の手助けになると考えられる。

5 児童の実態（略）

6 単元の指導計画（全5時間）

次	時	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価（評価方法）
一次 学習の 見通し を持つ	1	○「枕草子」を音読し、昔と今の四季に対する感じ方を比較しながら読み、「オリジナル枕草子」を書くという単元のめあてをつかむ。	<p>○児童それぞれが持つ四季のイメージを大切に するため、風物詩や出来事を自由にノート に書き、発表させるようにする。</p> <p>○「枕草子」を音読させ、四季を扱った内容 であることを理解させる。また、歴史的仮名遣 いや古語など、親しみのない言葉に印をつけ させ、言葉への関心を持たせる。</p> <p>○教師の見本を見せ、児童の意欲を喚起する。 その後、「オリジナル枕草子」を書くことを 伝え、目的意識を明確にさせる。</p> <p>◇リズムや響きの良さを感じながら、進んで音 読に取り組もうとしている。（音読）</p> <p style="text-align: right;">【国語への関心・意欲・態度】</p>
二次 枕草子 の音読	2	○「枕草子」の春と夏を音読し、歴史的仮名遣いや古語を知り、大体的内容や文章の表現や構成をつかむとともに、昔と今のものの見方の違いを感じる。	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">日記学習と音読・読書活動</p> <p>○「枕草子」の春と夏を音読させ、概要と読み 比べながら言葉の意味について確認させる ようにする。それらの言葉については、短冊 に書かせ、掲示することでいつでも確認でき るようにする。</p> <p>○各季節の始めの文に注目させ、「季節+趣の ある時間・風物詩」から書き出していること に気づかせる。また、良い内容が続いてい ることに気づかせる。</p> <p>○清少納言が描く情景や心情に注目させて読 ませるようにする。</p> <p>◇「枕草子」の文章について、内容の大体を知 り、リズムや響きの良さを感じながら音読し ている。（音読）</p> <p style="text-align: right;">【言語についての知識・理解・技能】</p>
	3	○「枕草子」の秋と冬を音読し、大体的内容をつかみ、昔と今のものの見方の違いを感じる。春から夏にかけての自分ならではの風物詩を見つける。	<p>○前時の短冊を見ながら大体的意味をとら させるようにする。</p> <p>○四つを比べさせることで、冬にだけ良くない ことが入っているということに気づかせる ようにする。また、前時に見つけた文章の表 現や構成についても確認させるようにする。</p> <p>○悪いところについても、清少納言ならではの 冬のとらえ方であることに気づかせる。</p> <p>○風物詩についてできるだけイメージを広げ</p>

			<p>させるため、ウェビングマップを書かせる。</p> <p>◇昔と今のものの見方や感じ方の違いを比較しながら読もうとしている。(活動の様子)</p> <p style="text-align: right;">【国語への関心・意欲・態度】</p>
三次 随筆 を書く	4	<p>○春～夏にかけての風物詩や出来事を思い出しながら「オリジナル枕草子」を書き、清少納言が描く情景や心情と比較する。</p> <p style="text-align: right;">(本時)</p>	<p>○前時までに読みとった文章の表現や構成についての掲示物を参考にしながら書かせるようにする。</p> <p>○清少納言のように、各々の風物詩の情景や心情を表現させるようにする。</p> <p>○ヒントがあるワークシートと、何も無いワークシートを配り、児童にどちらかを選ばせ、全員が書き出せるようにする。</p> <p>○読み比べをさせるときは、清少納言がどのような視点で指揮をとらえているのかを、拡大掲示物で確認させるようにする。</p> <p>◇「枕草子」の概略を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知り、現代人のものの見方や感じ方と比べている (完成作品)</p> <p style="text-align: right;">【言語についての知識・理解・技能】</p>
	5	<p>○完成作品を互いに読み合い、各々の季節の風物詩に対する情景や心情を比較する。</p>	<p>○ワークシートにより、交流の観点を明確にさせてから、相互評価を行わせるようにする。(季節は○○という書き出し・古語・風物詩に対する自分ならではの思いや体験)</p> <p>○相手の作品をより深く読めるようにするために、冒頭文を空欄にし、後の文を読んで当てはまる風物詩を挙げさせるようにする。</p> <p>◇「オリジナル「枕草子」」を互いに読み合う中で、自分の考えを広げたり深めたりしている。(ワークシート)</p> <p style="text-align: right;">【読むこと】</p>

日記学習と音読・読書活動

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ・「枕草子」の概略を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知り、現代人のものの見方や感じ方と比べている。
(言語についての知識・理解・技能)

(2) 本時の学習活動

- ・好きな季節を選び、「オリジナル枕草子」を書く。

(3) 本時の展開 (5時間扱いの4時間目)

主な学習活動	指導や支援の手立て ◇評価 (評価方法)
1 前時の学習を振り返り、めあてを確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 「オリジナル枕草子」を書き、清少納言と自分のものの見方や感じ方を比べよう。 </div>	
2 「枕草子」を音読する。	○清少納言のものの見方や感じ方を確認させるようにする。
3 「枕草子」の文章の表現や構成を確認する。 ○教師の見本を見ながら、どうすれば「枕草子」のような文章になるかを確認する。	○教師の見本を見ながら、「季節+○○」の書き出し、作者ならではの風物詩の良いところ・悪いところ（あれば）が書かれていることを確認させる。
4 「オリジナル枕草子」を書く。 ○前時で広げたウェビングマップのイメージの中からその季節の風物詩の自分ならではの良いところや悪いところを選んで書くようにする。 『夏といえばやっぱりプールかな。』 『夏祭りの縁日は楽しかったな。』 『蚊がたくさん出るから嫌だな。』	○前時に書かせたイメージマップを見て、季節の風物詩についての自分ならではの思い出や感じ方をもとに書くよう助言する。 ○全員に普通のワークシートとヒントが書いてあるワークシートを配り、選択させる。 ○一つが書き終えた児童については、文章の構成や内容を確認させ、新しい「オリジナル枕草子」を書いてもよいことを伝える。
5 「オリジナル枕草子」と『枕草子』を読み比べ、自分と清少納言のものの見方や感じ方を比較する。 『清少納言は夏の夜に蛍が飛び交うのがいいと言っているな。ぼくは蟬の声を聞くと夏を感じるから、虫に目を向けたところ是一緒だな。』 『夏は夜だと清少納言は言っているけど、昼間の方が夏らしいと思うな。同じ季節でも見方が違うんだな。』	○読み比べさせる前に、自分が選んだ季節と同じ季節の「枕草子」を音読させるようにする。 ○「オリジナル枕草子」と『枕草子』を読み比べさせる際に、前時までに読みとった概要をもとに、清少納言が風物詩のどこに目を向けているのかに注目させるようにする。 ○比較して気付いたことについてノートに書かせ、本時の学習を振り返らせるようにする。 ◇「オリジナルの枕草子」を書き、『枕草子』と読み比べることで、自分の考えを広げたり深めたりしている。(完成作品)
6 次時の学習の確認をする。	○次時では友達同士で読み比べを行い、昔の人とではなく、友達と自分とのものの見方や感じ方を比較することを伝える。

(4) 資料・見本等

①オリジナル枕草子

春は桜。
満開の桜の木の下で、お弁当を食べながらお花見するのがいとをかし。
時が経つと「花より団子」になるのもあはれなり。
入学式の頃はさらなり。
ぴかぴかのランドセルを背負った一年生を迎えるように、咲き誇る姿はいと美し。
持ちに待った入学式当日に、季節外れの雪が降り、花びらとともに散ってゆくのはわろし。

清晃成少納言

「夏は海」

夏は海。
真夏日の頃はさらなり。
ボディボードで遊ぶのがいと楽し。
また、ゴーグルをかけ、シュノーケリングをするのも良い。いろいろな魚が泳ぐ姿はいと美し。
浜辺にたくさんの人が集まり、ビーチボールや浮き輪を持ってはしゃいでいるのもいと夏らしい。
休憩しようと海に家に行くと、大混雑のため、なかなか昼飯にありつけなくてわろし。

清晃成少納言

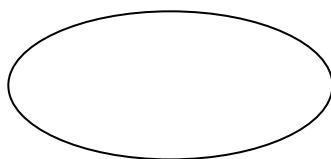
②参考文献

- 清少納言『枕草子』教育出版（教科書教材）
- 国立教育政策研究所（2010）「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」
- 水戸部修治編（2014）「小学校国語科 学習指導案パーフェクトガイド 5・6年」
- 青山由紀著（2013）「古典が好きになる—まんがで見る青山由紀の授業アイデア 10」

日本語のひびきを味わう〜二十世紀の清少納言になろう〜

名前 ()

― 選んだ季節ならではの風物詩について、イメージマップを書きましょ。



その風物詩の

- 良いところ
- 悪いところ
- 思い出
- 音やにおい
- などなど…

Blank writing area with vertical dashed lines.

良い所

Two large vertical rectangular boxes for writing.

④ 「かき」や「おはな」

するのが

Vertical rectangular box with a speech bubble pointing to it containing the text 季節.

は

Vertical rectangular box with a speech bubble pointing to it containing the text その季節と言ったら・・・.

その季節と言ったら・・・

※書き出しや内容に気をつけながら書いてみよう。古語も使ってみよう。

